

地域のわ通信

特別編

神奈川県地域づくり大学校

発行 ▶ 区政推進課 地域力推進担当 411-7026



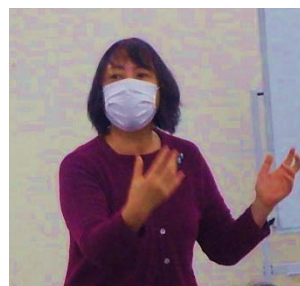
受講生の
満足度
92.8点!



第2講

【このままでは終わらない！地域の中で変わるもの
変わらないものを見つめ直す】

アイスブレイクで受講生同士が知り合うきっかけを作り 6期生の交流を進めました。その後、講義とグループワークを通して、地域活動に関わる人の広げ方、コロナ禍における地域づくりのポイントを学びました。



塚原 泉 さん



吉原 明日香 さん

講座概要

- 日時：令和2年12月6日（日）
9：30～12：30
- 場所：神奈川県役所5F 大会議室
- 参加者：28名*申込数30名
- 主催：
 - ・神奈川県連合町内会自治会連絡協議会
 - ・神奈川県役所
 - ・認定NPO法人 市民セクターよこはま
- 協力：社会福祉法人 横浜市神奈川県社会福祉協議会

当日のプログラム

- ◆アイスブレイク
- ◆講義①「関わる人を楽しくひろげる 小さな着火法～対話タイム」塚原 泉氏
(NPO 法人親かめ理事/神奈川県地域子育て支援拠点かなーちえ施設長)
- ◆講演②「コロナ禍における地域づくりの5つのステップ」吉原 明日香氏
(NPO 法人市民セクターよこはま理事・事務局長 /横浜市市民協働推進センター統括責任者)
- ◆グループディスカッション&全体共有

◆アイスブレイク

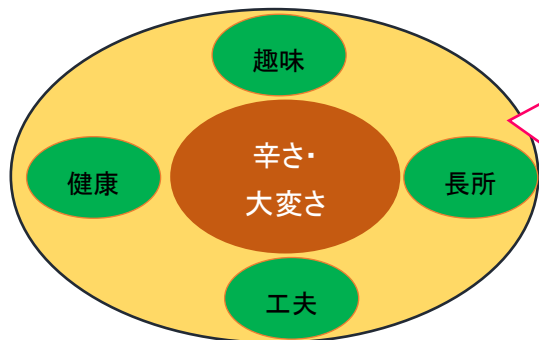


アイスブレイクで受講者同士の自己紹介タイムを持ちました。これから地域づくりと一緒に学んでいく仲間として交流する時間は大切です。ソーシャルディスタンスを取りながら「私の名前」「今日は〇〇から来ました」「この地域大に参加した今の気持ちは〇〇です」を紹介テーマに、それぞれが5人ずつと自己紹介をしました。

◆講義①「関わる人を楽しくひろげる 小さな着火法～対話タイム～」



人生100年時代を、データに基づいた横浜市の未来予測から考えると、人口減少、財政難などの問題が山積していますが、安定した地域社会を維持するには住民相互のつながりやコミュニティづくりは今まで以上に不可欠です。一方で比較的若い世代が地域のつながりや地域活動に関心が高いこともわかっています。大きいことはお願いするのではなく、小さくてわかりやすいことをこまめに出すことが、地域に関わる人をひろげることになります。みなさん「お願い上手に」になりましょう。



まんじゅう理論

あんこ（本人が抱える辛さ）を取り除こうとするより、むしろ皮の部分に注目しながら接することで、皮が厚くなり、あんこはなくなっても、相対的にあんこの割合が減ることで回復につながる（精神科医・伊藤順一郎さん）

→塚原さんの言葉では「地域課題に向けて直接動くことと並行して、むしろ、楽しく興味をもってくれるような活動（皮の部分）からアプローチしながら、人の心に響くチャンネルを作ることで、地域活動に関わる人は増えていく」

◆講義②「コロナ禍における地域づくりの5つのステップ」



地域で活動している人は、コロナ禍で今までの活動ができなくなり、地域活動にも変化が求められています。一方、人とのつながりや楽しく活動することなど、変わらないものを変えてはいけないうものもあります。コロナ禍という変化を活かしたい時の活動は、バックキャストイング（先にビジョンを描き→そのための行動を考え→実際に動いてみる）で考えてみてはどうでしょう。

5つのステップ

① 現状を分析する ② 先のビジョンを描く

③ アクションプランを考える

役割小割/二人一役/平日会議はシニアがバックアップ/だっこ隊・たまご（他孫）クラブ/若い世代の抜擢/サロン立ち上げ応援/そば打ち・コーヒー教室

④ アクションを始める、仲間づくり

3人程度の仲間ができれば地域リーダーやケアプラザなど順番に注意し根回し相談

⑤ 合意が得られたら、まずは小さくやってみる

相談→連絡→報告（そうれんほう）の順番

グループディスカッションからの意見（一部抜粋）

- ◆これからの地域活動→楽しく&負担感なくする必要はある
- ◆防災・防犯は誰でも共通する関心事項だ
- ◆目的をしっかり、形を変えてもアイドリングを絶やさない
- ◆地域に入っていく時の根回し、窓口、知識
- ◆人を育てるには、ミニチーム、分担、スケジュール
- ◆生活を元に戻す→いったん時間をもどしつつ、新しいものを取り入れて進化する